

湖南省防災士連絡会第1回幹事会会議録

1. 開催日時

令和元年12月12日 午後7時30分～10時

2. 開催場所

湖南省東庁舎 3階大会議室

3. 出席者

別紙、出席者名簿

4. 議事概要

4. 1 令和元年度湖南省防災士連絡会事業について

(1) 先進地視察研修について

視察先：みずなみ防災会（岐阜県瑞浪市）

日 時：令和2年1月（会議では日程は未定、後日、1月21日決定の連絡あり）

対 象：幹事（但し、バスの定員が28人乗りのため参加者多数の場合は要調整
28名に足りない場合は他にも募集）

① みずなみ防災会の活動についての説明

② 視察時の質問事項について

ひとりでも多くの防災士が自主防災組織などで活動するためのステップ、あと押し、活動しやすい環境の整備のための活動についてお聞きしたい。

- ・会員の防災意識の温度差を埋めるための取り組みについて
- ・年間事業計画と活動内容について
- ・みずなみ防災会内部でのスキルアップ訓練、研修について
- ・地域の防災意識格差をどのように平等化するか
- ・知識を自分のこととして行動することができる研修、取組みは？等

③ 日程については、12月20日までに決定して案内、年内に募集。

（12月19日、案内済み）

(2) 湖南省防災士研修会（消防庁「災害伝承10年プロジェクト」派遣講師）について

日 時：令和2年2月16日（日）午前9：30～

会 場：共同福祉施設（サンライフ甲西）2階大ホール

対 象：防災士

① 派遣講師の方についての説明

菅原康雄様・・・ 災害時相互協力協定を締結している

一連の活動を「福住町方式」として紹介されている

山田修生様・・・全国の被災地を視察し、津波対策について研究されている
大内幸子様・・・赤ちゃんを含む母子などの避難誘導等、女性目線で活動されている

② 派遣講師の候補者について

- ・いずれも東北地方の方だが、福住町は内陸部である。
- ・女性目線で活動に興味がある。
- ・「福住町方式」に興味がある。

優先順位 1：大内幸子様、 2：菅原康雄様、 3：山田修生様 に決定

③ 湖南省職員の方の講演

- ・被災地の方の話を聴いた後、我々の地域でも災害が起こりうるということを認識できるような研修会にするために、湖南省の職員の方に湖南省で起こりうる災害についての具体的な事例についての話をしていただきたい。
- ・派遣講師の方の講演の後、2部構成で30分程度話していただく。

(3) 湖南省防災士連絡会第2回幹事会について

日 時：令和2年2月20日（木）午後7時30分～
場 所：湖南省役所大会議室
議 案：令和2年度事業計画等について

4. 2 令和2年度湖南省防災士連絡会事業計画（案）について

- ・現時点ではまだ白紙の状態である。
- ・研修会を年に何回開催するか、会員への情報発信として広報を年に何回発行するかを決められてはどうか。
- ・会員に対しての情報発信の方法として、ホームページを開設やメールの配信を検討。
- ・ハザードマップを基に、各地域の危険個所の現地把握や危険予知するための活動をしてはどうか。
- ・防災マップを作成する勉強会を開催してはどうか。
- ・幹事をグループ化して、研修会や広報などの委員会を組織して活動してはどうか。
- ・各防災士が地域の中で、防災リーダーとして活躍し、地域の防災力を向上してもらうための支援が必要ではないか。
- ・幹事が地域にかえって、防災士や住民に対して、どのように情報発信していくか、防災に対する意識の温度差をどう埋めていくかが今後の課題である。
- ・現在、内閣府の支援を受けて地区防災計画を作成しており、市の方から情報提供をしていきたい。

- ・湖南省の中でも地域によって温度差があり、先進的な地域の情報を提供して頂いて、少しでも地域の中で活かしていきたい。
- ・滋賀県は防災意識が低い。住民の防災意識を向上していくには地域の防災訓練を積み重ねていくしかない。

4. 3 その他

黄色いハンカチ作戦の紹介（柑子袋区）

- ・黄色いハンカチが安否確認のスピードアップが図れる。
- ・デメリットとしては、避難中に窃盗犯に留守宅を狙われる可能性がある。
- ・費用は 1000 枚製作して、158 円/枚。
- ・みどりの村区では、白いハンカチで安否確認を行ったことがあるが、協力して下さる家庭がまだ 1/3 と少ないことや、防災班長一人では担当区域（25 軒）を見て回るができない等の問題点があった。
⇒ 10 軒単位で防災班長を設けている。
- ・避難が完了したかの目印ではなく、地震の時の安否確認として活用するのであれば、盗難などの問題はないのではないか。
- ・防災班長が被災した場合はどうするか。
⇒ 防災班長のバックアップを取れる体制を構築している。
- ・外出している人はどうするか。
⇒ あくまで自宅で被災している人を救出する目的で行っているので、外出している人は対象外としている。
- ・運用基準が確立できれば、また、情報提供いただきたい。
- ・黄色いハンカチ作戦に賛同して実施しようという区があれば、市としても支援、補助していけるよう検討していく。
- ・次年度の活動の一つとして、「黄色いハンカチ作戦」の推進を加えて検討していく。

4. 4 会員への情報発信について

- ・幹事から各会員へ直接、膝を突き合わせて情報を発信できれば一番いいが、ホームページや情報誌等の提供も次年度の活動として検討していく。

以上